

# 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の小田原市の結果について

## 1 調査の目的

- (1) 子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査対象：小学校第5学年、中学校第2学年

## 3 調査事項および内容

- (1) 実技調査・・・新体力テスト（8種目）
  - ①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横とび ⑤20mシャトルラン（または持久走：中学校）
  - ⑥50m走 ⑦立ち幅とび ⑧ボール投げ（小学校：ソフトボール、中学校：ハンドボール）
- (2) 児童生徒に対する質問紙調査・・・運動習慣・生活習慣等に関する項目
- (3) 学校に対する質問紙調査・・・子どもの体力向上に係る取組等に関する項目

## 4 調査実施日

- (1) 実技調査・・・平成30年4月～7月
- (2) 質問紙調査（児童生徒用、学校用）・・・平成30年7月

## 5 実技調査の結果

- (1) 体力合計点（平均）の経年比較

	小学校第5学年						中学校第2学年					
	男子			女子			男子			女子		
	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国	市	県	全国
H30	54.47	53.68	54.21	55.96	54.61	55.90	41.72	40.82	42.32	49.99	48.23	50.61
H29	53.90	53.41	54.16	54.50	54.34	55.72	41.59	40.62	42.11	48.13	47.82	49.97
H28	54.58	52.92	53.92	55.65	53.69	55.54	41.56	40.14	42.13	47.61	46.89	49.56
H27	51.94	52.44	53.80	53.56	52.61	55.18	40.85	40.33	41.89	46.42	46.55	49.08

※体力合計点：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した合計点

(2) 判定分布の経年比較（男女平均値）

小学校 第5学年	A (65～80)	B (58～64)	C (50～57)	D (42～49)	E (41以下)
H30	14.0%	27.7%	34.1%	17.9%	6.3%
H29	11.5%	27.0%	32.2%	21.2%	8.0%
H28	14.8%	26.7%	34.0%	17.4%	7.1%
H27	6.8%	23.7%	38.4%	25.5%	9.3%

中学校 第2学年	A (57～80)	B (47～56)	C (37～46)	D (27～36)	E (41以下)
H30	19.4%	29.5%	30.3%	16.0%	4.8%
H29	18.1%	25.6%	31.7%	19.6%	5.2%
H28	15.2%	26.8%	34.8%	18.0%	5.3%
H27	13.2%	28.7%	31.8%	20.8%	6.3%

※判定基準：8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した合計点を、括弧（ ）の基準によりAからEの5段階で判定する。

本市の児童生徒の体力の状況は、おおむね上昇傾向であると判断できます。

昨年度（平成29年度）より、体力合計点（平均）では小学校男子で約0.5ポイント、女子で約1.5ポイントの上昇、中学校男子で約0.2ポイント、女子では約1.9ポイントの上昇がありました。

このことは、運動を得意とする児童生徒（A・B判定）の割合が増加したことも要因の一つですが、本市がこれまで課題としてきた運動を苦手とする児童生徒（D・E判定）の割合が減少したことも大きな要因であると考えています。

本市内各校では、「運動が苦手」と感じる児童生徒の運動・スポーツへの志向が低下し、いわゆる「運動離れ」につながらないように、「できる」「できない」だけではない運動・スポーツの楽しみ方を子どもたちに感じてもらうことの大切さ、また「運動が苦手」や「意欲が低い」児童にも配慮した指導の在り方について、様々な工夫をしている様子が見られました。

(3) 種目ごとの平均値 \* T得点：全国平均値を 50 点とした時の相対的な得点を示すもの

小学校 5 年生	男 子				女 子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	16.89	16.97	16.54	50.9	16.47	16.43	16.15	50.8
上体起こし (回)	20.46	19.90	19.95	50.9	19.32	18.65	18.96	50.7
長座体前屈 (cm)	36.45	34.75	33.31	53.8	39.56	38.76	37.62	52.3
反復横とび (点)	41.28	40.04	42.10	49.0	39.31	37.92	40.32	48.6
20mシャトルラン (回)	50.67	48.37	52.15	49.3	40.22	37.00	41.88	49.0
50m走 (秒)	9.44	9.34	9.37	49.3	9.66	9.62	9.60	49.4
立ち幅とび (cm)	148.76	149.75	152.24	48.4	143.11	142.71	145.94	48.6
ソフトボール投げ (m)	21.23	21.44	22.15	48.9	13.79	13.25	13.77	50.0

昨年度（平成29年度）より、記録が向上した種目が男子は3種目、女子は7種目ありました。昨年度より記録が低下した種目においても、著しく記録が低下しているということではなく、昨年度に近い記録であり、全体としては大幅な記録の向上となりました。

昨年から引き続き、「反復横跳び」「立ち幅とび」など「瞬発力」「筋力」が課題となっています。足腰の力強さを身に付けるとともに、瞬間的にタイミングよくその力を発揮できるような動きを数多く経験していくことが必要です。

中学校 2 年生	男 子				女 子			
	小田原市	神奈川県	全国	T得点	小田原市	神奈川県	全国	T得点
握力 (kg)	27.73	28.37	28.84	48.5	22.57	23.63	23.87	47.2
上体起こし (回)	26.48	26.50	27.36	48.6	23.40	22.63	23.87	49.2
長座体前屈 (cm)	43.31	42.55	43.44	49.9	45.73	44.77	46.22	49.5
反復横とび (点)	51.47	50.32	52.24	49.0	46.58	45.45	47.37	48.8
持久走 (秒)	397.26	397.45	392.65	49.3	295.65	293.90	286.85	48.0
20mシャトルラン (回)	83.79	85.21	86.06	49.1	59.23	57.34	59.87	49.7
50m走 (秒)	7.88	7.98	7.99	51.3	8.68	8.78	8.78	51.2
立ち幅とび (cm)	194.30	191.57	195.62	49.5	166.50	164.59	170.26	48.5
ソフトボール投げ (m)	20.71	19.98	20.55	50.3	13.26	12.51	12.98	50.7

昨年度（平成29年度）より、記録が向上した種目が男子は3種目、女子は7種目あり、昨年度の総合判定を上回る結果となりました。昨年度の分析から、特に課題とされていた「20mシャトルラン」「立ち幅とび」など「全身持久力」や「瞬発力」において、記録の向上が見られました。全身持久力の向上には反復や積み重ねが必要であり、日常的な運動習慣がより高まった成果として捉えることができます。

小学校5年生で全国平均を上回る傾向を示した「握力」「上体起こし」「長座体前屈」が中学校2年生では全国平均を下回る結果となっていますが、「筋力」や「柔軟性」など体格や生活習慣等との関連が深い種目が課題となっています。

## 6 質問紙調査の結果

### (1) 児童生徒質問紙調査の結果から

小学校第5学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	91.7	93.0	86.2	86.4
体力に自信がある	ある・ややある	65.4	65.2	50.1	51.4
体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	95.2	94.6	92.4	90.7
体育授業の目標が示されている	示されている・時々示されている	94.1	83.1	93.5	83.9
体育授業で友達同士やチームで話し合う活動を行っている	行っている・時々行っている	92.4	86.8	94.1	86.7
授業で学んだことを振り返る活動を行っている	行っている・時々行っている	90.0	67.5	91.1	68.1
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	47.2 H29(39.9)	38.1 (32.9)	37.0 (30.4)	29.1 (25.2)

男女とも、「体力に自信がある」と回答した児童の割合はあまり高くありませんが、「体育の授業を楽しんでいる」と回答した児童の割合は最も高くなっており、体育授業の充実が図られていることを示しています。

特に、「目標が示されているか」「話し合う活動を行う」「友達と協力して課題を解決する」「本時で学んだことを振り返る」等の体育学習に関する質問は、全国平均を大きく上回る数値を示しており、児童が意欲的に体育学習に取り組んでいることが伺えます。

一方で、テレビやDVDゲーム機やスマートフォン等の画面を長時間視聴している児童の割合が平成29年度をさらに上回る結果となり、帰宅後も運動・スポーツを志向する児童を育むことが必要であると考えます。

中学校第2学年	回答	男子		女子	
		小田原市	全国	小田原市	全国
運動が好き	好き・やや好き	90.2	88.8	78.3	78.9
体力に自信がある	ある・ややある	54.2	52.3	32.5	36.2
保健体育の授業は楽しい	楽しい・やや楽しい	91.2	89.3	86.0	84.4
保健体育授業の目標が示されている	示されている・時々示されている	97.3	89.9	96.5	89.5
保健体育授業で話し合う活動を行っている	行っている・時々行っている	92.8	88.4	95.3	92.3
保健体育授業で自分に適した場や練習を選んで活動を行っている	行っている・時々行っている	77.9	66.8	70.2	65.6
授業で学んだことを振り返る活動を行っている	行っている・時々行っている	87.2	74.7	87.5	77.2
平日、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見る時間	3時間以上	45.6 H29(42.6)	36.5 (32.4)	49.1 (41.2)	35.2 (32.4)

運動・スポーツへの志向については小学校と同様の傾向を示していますが、近年問題となっている「体力の二極化」が女子の「体力に自信がある」の質問項目に対する回答としても数値として表れています。

しかし、「保健体育の授業は楽しい」と感じている生徒の割合は高く、指導の充実が図られていることを示しています。特に、「目標が示されているか」「話し合う活動を行う」「自分で適した場や練習を選んで活動を行う」「本時で学んだことを振り返る」等の質問では高い数値を示しており、生徒が主体的に体育学習に取り組んでいることが伺えます。

体育学習については小中学校で共通する傾向にあり、小田原市の学校体育の取組の特長であることから、今後も一層の充実に向けていきます。また、テレビやDVD、ゲーム機やスマートフォン等の画面の視聴については中学校でも高い数値となっており、市全体の喫緊の課題であると捉えています。

(2) 学校質問紙調査の結果から

小学校・中学校	回答	小学校		中学校	
		小田原市	全国	小田原市	全国
体育/保健体育授業で、努力を要する児童・生徒に対する取組					
授業中に児童生徒に合った場やルールの工夫をしている	している	92.0	80.5	90.9	71.2
友達同士で教え合いを促している	している	88.0	85.7	100.0	80.8
体育/保健体育授業以外で、体力向上の活動を行う上での取組					
児童/生徒による自主的な準備・計画を取り入れた	している	63.2	31.5	33.3	36.4
学校全体で児童生徒の体力・運動能力の向上に係る取組を行った（H29実績）	行った	73.7	55.7	63.6	47.7

体力・運動能力との相関がみられることから、体育学習の充実が児童生徒の体力・運動能力向上の大きな鍵となると考えています。

本市の小中学校では、「見通しを持つ」「友達とチームで協力して、課題の解決に向けて取り組む」「授業の振り返りをして、次の授業の目標を持つ」といった児童生徒が主体的に取り組む体育学習のスタイルが定着し、体力・運動能力の向上につながる成果をあげていると捉えています。

今後は、児童生徒一人一人が自らの健康や体力について考える機会を増やしたり、学校全体で展開している体力・運動能力の向上を目指した取組をさらに充実させたりなど、生涯にわたって豊かなスポーツライフを楽しめる能力を育ていけるよう取組の充実を図っていきたいと考えています。

## 7 今後の主な取組

- 各学校においては、「新体力テスト」等により、児童生徒の体力・運動能力の現状を把握し、その結果を体育・スポーツ活動等の指導に生かしていきます。
- 体育/保健体育の学習において、児童生徒の主体性を高める工夫に努めるとともに、運動・スポーツが苦手と感じている児童生徒への指導・支援について工夫・改善していきます。
- 市教育委員会においては、体力・運動能力向上指導員や著名なアスリートを小中学校へ派遣するなどして、児童生徒の体力・運動能力や運動に関する意欲を高める取組を推進します。
- 児童生徒の体力・運動能力の向上に向けて、適切な情報提供に努めます。